

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE埼玉2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(有)埼玉フーズ所沢工場新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県所沢市大字下富字月見原	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 防火指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年10月31日
敷地面積	8,071 m <sup>2</sup>	作成者	高野
建築面積	2,658 m <sup>2</sup>	確認日	2018年10月31日
延床面積	3,000 m <sup>2</sup>	確認者	高野



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 周囲の景観との調和に配慮した建物形状、色彩計画とした。 各種法令・規制を遵守し、周辺環境に配慮すると共に、食品工場として衛生管理に配慮した計画としている。		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> F 建材を使用し、ホルムアルデヒドの発散を抑制している。 換気量を建築基準法の1.5倍とし室内環境の向上を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高を4m確保し、外壁面に設けるコアが小さく、空間にゆとりと自由度のある建物としている。また、天井の懐にゆとりを設け、設備の改修をしやすくしている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 主要道路から建物を奥ませ、手前には緑地帯を設け、圧迫感の低減を図っている。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱性を高め、熱負荷低減を図っている。 BEIm=0.74とし、エネルギー使用の効率化に努めている。 照明器具は基本的にLED光源を採用し、エネルギー使用の効率化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型大便器・小便器・自動水栓の採用。 床材でエコマーク認定品を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率は88%。 トラックが通る構内道路を敷地の中央に寄せ、近隣への騒音、振動の低減を図っている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q: Quality** (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
**(有)埼玉フーズ所沢工場新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>0 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>		<b>-</b>		<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15		<b>-</b>		<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		<b>3.0</b>		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		<b>-</b>		
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	0.60		<b>3.0</b>		
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	0.40		<b>3.0</b>		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				<b>3.0</b>	-		<b>3.0</b>		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				<b>3.0</b>	-		<b>3.0</b>		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20		<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.1</b>	0.35		<b>-</b>		<b>2.1</b>
2.1 室温制御				<b>2.2</b>	0.50		<b>-</b>		
1 室温				<b>3.0</b>	0.38		<b>3.0</b>		
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25		<b>3.0</b>		
3 ゾーン別制御性				<b>1.0</b>	0.38		<b>-</b>		
2.2 湿度制御				<b>2.0</b>	0.20		<b>3.0</b>		
2.3 空調方式				<b>2.0</b>	0.30		<b>3.0</b>		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25		<b>-</b>		<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 昼光率				<b>3.0</b>	0.60		<b>3.0</b>		
2 方位別開口					-		<b>3.0</b>		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40		<b>3.0</b>		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00		<b>3.0</b>		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		<b>3.0</b>		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25		<b>3.0</b>		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.3</b>	0.25		<b>-</b>		<b>3.3</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		<b>-</b>		
1 化学汚染物質		F 建材を使用し、ホルムアルデヒドの発散を抑制している。		<b>4.0</b>	1.00		<b>3.0</b>		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 換気量		換気量、建築基準法の1.5倍		<b>5.0</b>	0.33		<b>3.0</b>		
2 自然換気性能				<b>1.0</b>	0.33		<b>3.0</b>		
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.33		<b>3.0</b>		
4.3 運用管理				<b>2.0</b>	0.20		<b>-</b>		
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>1.0</b>	0.50		<b>-</b>		
2 喫煙の制御				<b>3.0</b>	0.50		<b>-</b>		
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>		<b>-</b>		<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.7</b>	0.40		<b>-</b>		<b>2.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.3</b>	0.40		<b>-</b>		
1 広さ・収納性				<b>3.0</b>	0.33		<b>3.0</b>		
2 高度情報通信設備対応				<b>1.0</b>	0.33		<b>3.0</b>		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33		<b>-</b>		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 広さ感・景観				<b>3.0</b>	0.33		<b>3.0</b>		
2 リフレッシュスペース				<b>3.0</b>	0.33		<b>-</b>		
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33		<b>-</b>		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50		<b>-</b>		
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50		<b>-</b>		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.8</b>	0.30		<b>-</b>		<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		<b>-</b>		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80		<b>-</b>		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		<b>-</b>		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		<b>-</b>		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
2.4 信頼性				<b>2.2</b>	0.20		<b>-</b>		
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
3 電気設備				<b>1.0</b>	0.20		<b>-</b>		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20		<b>-</b>		
5 通信・情報設備				<b>1.0</b>	0.20		<b>-</b>		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を4m確保している。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.1以上0.3以下の範囲に入っており、自由度がある。	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.8</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱性を高め、熱負荷低減を図っている。	<b>5.0</b>	-	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.74	<b>3.6</b>	0.63	-	-	<b>3.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	O Aフロアの使用、躯体 + 軽鉄 + 仕上材となっている。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	1.00	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率は88%。	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(有)埼玉フーズ所沢工場新築工事	BEE	0.9	BEEランク
------	------------------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.4	+	2.6	=	6.0
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	3.4
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
< 配慮した内容を記述 > トラックが通る構内道路を敷地の中央に寄せ、近隣への騒音、振動の低減を図っている。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 > 主要道路から建物を奥ませ、手前には緑地帯を設け、圧迫感の低減を図っている。			

: 入力欄